



Current campus life in Sussex

サセックス大学の Mr. James Minhas 担当官から大学のキャンパスライフの現状報告をいただきました。

~~~~~

We are pleased to report that the University commenced its new academic year in mid-September and has gone very well so far.

The campus is fully open and the vast majority of courses are being taught in-person, with an online option for those students that need to arrive a little later due the pandemic.

The University has worked hard to make sure campus is safe as possible and complies to all the latest pandemic measures, including one way flow systems, advisory mask wearing in busy spaces and regular deep cleaning. There is a free testing and vaccination centre for all students and staff on campus.

It has been fantastic to see so many new happy student faces on campus and we have welcomed students from over 100 different countries and over 2000 new international students. This includes over 50 new students from Japan, a figure almost as high as the pre-pandemic era and confirming Sussex's place as one of the most popular destinations for Japanese students in the UK.

Development Studies remain the most popular subject area for Japanese students and most students are at the postgraduate level, but with a sizable amount doing foundation or undergraduate. The majority of these Japanese students have already signed up and met with the Japanese Student Society at their launch event in September.

The start of term follows a busy summer where the Japan Country Officer, Kazuki Kido, based in Tokyo BEO worked very hard and did an excellent job preparing students for coming to the UK and Sussex. The Japanese Alumni Society played a major role in preparing students again with a very well attended and well received pre-departure event in summer. As in previous year's, the University is eternally grateful

for this support and the fantastic help the alumni group offer in this and big events like our first Development Studies Week, which took place in March 2021 (and will be repeated in April next year).

There have been a number of events in the first few weeks of term, including a freshers fair, street food market (in Falmer Quad), hybrid job fair and pop-up coffee shops. For the most part we were lucky enough to have some sunny days to welcome new and returning students too. We even had our first post-pandemic school visit – from a Japanese school based in Sussex (Rikkyo School). We had 50 happy Japanese students and teachers visit the campus to get their first taste of a UK university (see photograph below).

Campus is looking fantastic. The new East Slope housing has been completed and looks very impressive. Lots of the facilities have been refurbished and new trees have been planted to celebrate Sussex 60<sup>th</sup> birthday, this year. We are excited to open the new Student Centre in spring, which will provide a one stop shop for student services, that had been build where East Slope Bar was previously.

Given the success of 2021/22 so far, we are really looking forward to this new academic year and the possibilities it holds. We are working hard to input the new university strategy which will help us succeed in years to come, provide a fantastic experience for our students and shore up our place as one of the UK's foremost progressive, sustainable and interdisciplinary universities. (James Minhas)



## キャンパス便り

氏名：菅谷 奈々

専攻コース名：MA Development Studies 2021 年入学

2021-2022 年度の IDS の MA Development Studies に在籍しております、菅谷奈々と申します。この寄稿を機に、皆様と交流できればと思っております。よろしくお願いいたします。

### 留学するに至るまで

学部生時代は、日本の大学でタガログ語を専攻し、在学中にフィリピン大学へ1年間の留学をしました。留学中に、どんどん進んでいくフィリピンの経済発展から取り残されている informal sector の人々の現状を目にしたことから、彼らのおかれた状況を少しでも良くすることにコミットしたいと思うようになり、開発援助の道を志しはじめました。

大学卒業後は、フィリピンとマレーシアで合計3年間、在外公館派遣員という契約ポジションで、日本大使館で勤務をしていました。勤務を通し、日本外交の目線から開発援助を自分なりに考える中で、開発援助が外交カードの1つとして各国で使われているように見える現状に疑問を感じ、「開発とはどうあるべきか」、一度捉え直す必要があると思い、開発学を広く学べる IDS の MA Development Studies にアプライすることを決断しました。

### COVID-19 と学生生活

私が渡英した時点では、ワクチンを打っていても、日本からの渡航者は最大10日間の自主隔離が義務付けられていました。しかしながら、大学側が大学の寮を予約している学生に対して、隔離期間のみ寮に無料で宿泊させてくれたり、隔離にかかる費用を一部支給してくれたり等、手厚くサポートしてくれたお陰で、大きな不安もなく隔離期間を過ごすことができました。

現在は、大学全体で対面授業も多く開講されています。私のコースの場合は、録画済み講義の事前視聴+オンラインでのQ&A session+対面でのセミナーという3段階構成になっています。やはりセミナーだけでも対面のできる状況にあることに非常にありがたく感じています。

### IDS での学び

MA Development Studies では、100人近くのあるゆるバックグラウンドを持った学生が、様々な国から集まっていることもあり、講義だけではなく、それぞれの学生の経験や考えからも非常に学ぶことが多く、毎日が刺激的です。

秋学期は、Ideas in Development and Policy, Evidence and Practice と Economic Perspectives on Development という2つの授業を受講しています。どち

らの授業においても、他の学生と同じレベルでリーディングをこなし、ディスカッションで有益な発言ができていくかという点、まだまだだと思えます。私自身が他の学生から学んでいるのと同じく、自分も他の学生にとっても有意義なアウトプットができるように、日々試行錯誤をしているところです。

IDS は、卒業生も含めた IDS コミュニティをととても大切にしており、どんどん人と関わってネットワークを広げることを推奨している雰囲気があると感じています。開発援助のキャリアを目指す上で、人との繋がりがりもとても大切なことだと考えているので、勉強だけではなく、IDS に在籍していることのあらゆるアドバンテージを最大限に活用することを心がけて、残りの大学院生活を過ごしていきたいと思えます。



「今日は外でディスカッションしましょう！」と先生に言われて、野外でセミナーを行った時の写真



授業とは別の Course Session とよばれる Academic Skill をブラッシュアップするための対面での session があり、この写真は、その session 後にそれぞれ食べ物を持ち寄って軽食を取った時のものです。

## ALUMNI NOW!

田才 諒哉 (たさい りょうや)

MA in Development Studies

Institute of Development Studies 2019年修了  
一般財団法人ササカワ・アフリカ財団ジュニアプログラム  
オフィサー、国際協力NGOセンター (JANIC) 理事

サセックス大学Institute of Development Studies (IDS) を卒業してから、早いもので2年が経ちました。学部時代から国際開発を専攻しており、「将来に渡ってこのフィールドで仕事を続けたい」「国際機関で働いてみたい」という思いから、自然と大学院進学は目標の一つでした。新卒で日本のIT企業に勤め、その後NGO職員としてスーダンに駐在。社会人経験がある程度積んだ段階で、サセックス大学IDSへの進学を決めました。

IDSで過ごした1年間は、一言でいうと「最高だった」これに尽きます。世界各国から集まった仲間たちと開発についてとことん議論できたことは貴重な経験でしたし、ホームパーティーでお酒を飲んでふざけあっている、最終的には真面目な開発トークに落ちてしまうような「開発フリーク」な仲間たちが大好きでした。講義では、ロバート・チェンバース氏との出会いが衝撃的で、彼から学んだ「現場に寄り添う姿勢」はずっと大切にしたいと思っています。

もちろん、楽しかったことばかりではありません。英語でアカデミックな講義を受けるのは初めての経験でしたし、膨大な量のリーディングリストや課題に入学当初は苦戦したことを今でも鮮明に思い出します。春学期になると、講義やセミナーの”勘所”を押さえることができるようになり、必死に着いていくだけでなく、楽しみながら参加することができるようになっていました。

IDS卒業後は、JICA海外協力隊として国連世界食糧計画 (WFP) マラウイ事務所に派遣され、レジリエンス部のプログラムオフィサーとして勤務しました。WFPでは、洪水や干ばつなどの自然災害による被害を受けた人々への食糧支援及び現金給付 (Food/Cash for Work)、小規模農家の市場へのアクセス促進、気候インデックス保険等の事業を担当し、現場で活動するパートナーNGOの選定やモニタリング・評価に従事しました。またマラウイ事務所には日本人が一人しかいなかったため、日本政府とのリエゾン役も兼務し、外務省補正予算等の資金調達のための協議やプロポーザル作成にも関わりました。

た。

ある日、事務所でデスクワークをしていると、「Hi Ryoya!」と一通のメールが届きました。差出しはWFPコロンビア事務所からで、なんとブライトンで飲んで踊って語り明かしたIDS同期のコロンビア人の友人からでした。彼もWFPで働くことになったとのことで、南米、アフリカと大陸は違えど、同じ組織に大学院時代をともに過ごした仲間がいるのは嬉しい気持ちになりました。



WFPでの仕事はとても楽しく、イギリス人上司の計らいでワークショップやフィールドワークにも積極的に参加させてもらっていたのですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、JICA海外協力隊の全退避が決定。任期を1年半以上残したまま日本へ帰国となり、夢であった国際機関で働くという経験は、たった数ヶ月で強制終了となってしまいました。大学院修了から1年経たず、援助が必要な方々に対して食糧／現金給付をしていた側から、見事に”無職”になってしまったわけですが、「国際開発の仕事に関わり続けたい」という思いは微塵も揺ぎませんでした。たまたま求人情報で見つけたポストに応募し、採用していただいたのが、現在勤めているササカワ・アフリカ財団です。

ササカワ・アフリカ財団は、アフリカで農業・農村開発を35年に渡り行ってきた国際NGOで、現在はエチオピア、ウガンダ、ナイジェリア、マリを中心に活動を展開しています。私は東京本部のジュニアプログラムオフィサーとして、上記4ヶ国の事業を担当しています。具体的には、JICAと共同で市場志向型農業振興 (SHEP) アプローチの実践、HarvestPlusとの連携で高栄養価作物の普及による栄養に配慮した農業の促進、農業生産性向上から収穫後処理、農業関連ビジネスなどバリューチェーンを一気通貫した支援を実施しています。これらの事業

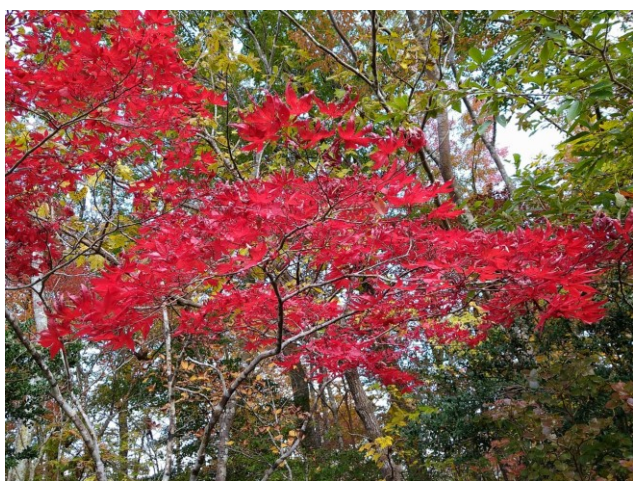
は、WFP等の国際機関やイスラム開発銀行等の国際開発銀行からの資金で実施され、新規案件形成のためのドナー協議やプロポーザル作成、事業・予算管理、事業評価、報告書作成まで一連のプロジェクト関連業務を担当しています。各国からの膨大な量の報告書を読む毎日ですが、大学院で学んだ”勘所”を押さえるスキルには今でも助けられています。

コロナ禍ではありますが、今年から海外出張が再開し、3月にエチオピア、5月にウガンダ、8月にはセネガル、マリ、コートジボワール、ナイジェリアの計6ヶ国に出張し、現場視察や関係機関との協議を行ってきました。オンライン会議はもちろん便利ではありますが、それだけでは見過ごしてしまう部分については、今後もある程度の対面での仕事が必要になるのが開発の仕事だと思います。サセックス大学で学んだ「現場に寄り添う姿勢」を忘れず、自分ができることに取り組んでいきます。

## 日本の秋



コスモス@平原遺跡、糸島市、福岡県



紅葉@箱根湿性花園、箱根町、神奈川県

## ALUMNI NOW!

坂本和樹（さかもと かずき）

MA in Globalization, Business and Development,  
Institute of Development Studies ‘21年卒業

JICA インドネシア事務所

企画調査員（中小企業・SDGsビジネス支援）

東京大学教養学部国際関係論分科卒業後、消費財メーカーのP&Gに入社しました。P&Gでは日本とシンガポールで合計7年間勤務し、洗濯洗剤や柔軟剤を担当しておりました。P&Gは開発途上国にも広く展開している消費財メーカーということもあり、ビジネスセクターから開発に関わることも出来る環境でしたが、短期的利益の追求も重要とされるビジネスセクターではなく、国際開発セクターで働いてみたいと思い、サセックス大学への進学を決意しました。



サセックス大学では、開発研究所（IDS）の修士課程に2019年～2021年に在籍しました。Globalization, Business and Development, Institute of Development Studiesのコースにおいて、「開発におけるビジネスの役割」や、「政府がどのように産業政策・規制を進めていくべきか」等を学びました。ただ、新型コロナウイルスの感染拡大が始まった時期であったこともあり、Term 2の途中の2020年4月に日本に本帰国し、オンラインで残りの授業と修論指導を受けました。

帰国後は、2020年7月より国連WFP日本事務所で、政府連携コンサルタントとして勤務しました。新型コロナウイルスで世界の飢餓人口が増える中、日本の外務省との折衝を通して、国連WFPへの拠出金を少しでも多く獲得すべく奔走しました。この際には、サセックス大学で学んだ国際開発の大きな潮流や、Term2で取った栄養の授業の内容がとても実務に役立ちました。



国連 WFP での仕事はとてもやりがいのあるものでしたが、開発途上国の現場で経験を積みたいとの思いがあり、2021年1月より JICA インドネシア事務所に転職しました。



JICA では、日系中小企業のインドネシアへの進出支援や、現地スタートアップの支援、インドネシア投資省への専門家派遣による投資環境の整備を担当しております。まさにサセックス大学で学んだ、「開発におけるビジネスの役割」について日々考えながら仕事ができることは、とても楽しい一方で、開発に配慮した事業がスケールアップすることの難しさを実感しております。また、二国間の援助機関ということもあり、日本への裨益を考慮した上での支援が求められることも難しさでもあり工夫が必要な面でもあります。その一方で、Gojek や Tokopedia といった現地スタートアップが雇用を創造し、コロナ禍における中小企業の売上を救っていることをみて、開発途上国におけるビジネスセクターへの希望も高まります。

JICA や開発コンサルタント業界にはサセックス大学の卒業生がとても多く、東京の本部のみでなく、アフリカ・アジアと広く卒業生のネットワークがあり、仕事においても大変助かっております。

そして、現在のポジションは 2023 年夏までの契約ということもあり、早くも次のキャリアにも悩む日々です。組織の駒とならず、自分が出せるユニークな価値を最大化しつつ、また開発インパクトも最大化できるように、自分の経験やスキルも磨きつつ、これからのキャリアを考えていければと思っております。同じような悩みがある方、気軽にご連絡ください！

<https://www.facebook.com/kazuk18/>

<https://twitter.com/kazuk18>

## アフガニスタンの学生支援金の募集

サセックス大学からアフガニスタンの学生支援金の募集が届いています。ご支援をされる方は、下記リンクから支援をしてくださいますよう、お願いいたします。

URL: [supportsussex.hubbub.net/p/AfghanAppeal/](https://supportsussex.hubbub.net/p/AfghanAppeal/)

皆様のご支援でアフガニスタンの有意の学生が勉強することができます。皆様のご協力をお願いいたします。

## 編集後記

ワクチン接種のお蔭でコロナ禍でも世界の様々なところで少し落ち着きを取り戻しつつあるようです。Mr. Minhas や菅谷さんが書いてくださったように、サセックス大学も感染対策をしながら活気を取り戻しつつあるようです。

「Alumni Now!」ではコロナ禍でも世界でご活躍されている同窓の方からご寄稿いただき、内容の充実したニューズレターをお送りすることができました。ご協力いただいた方、どうもありがとうございました！（加藤）